

# 基準嗅覚検査 (ニオイの検査)

検査時間  
15分

## ○目的・方法

嗅覚測定用のニオイ液を紙に浸してニオイをかいでもらいます。

(写真1)

ニオイ液は5種類で7～8段階の濃度があり、どの濃度でニオイを感じるか、どんなニオイかわかるかを調べることで、嗅覚を客観的に数値で表します。(図1)

この検査は治療効果の判定をする場合にも検査します。

写真1 基準嗅覚検査

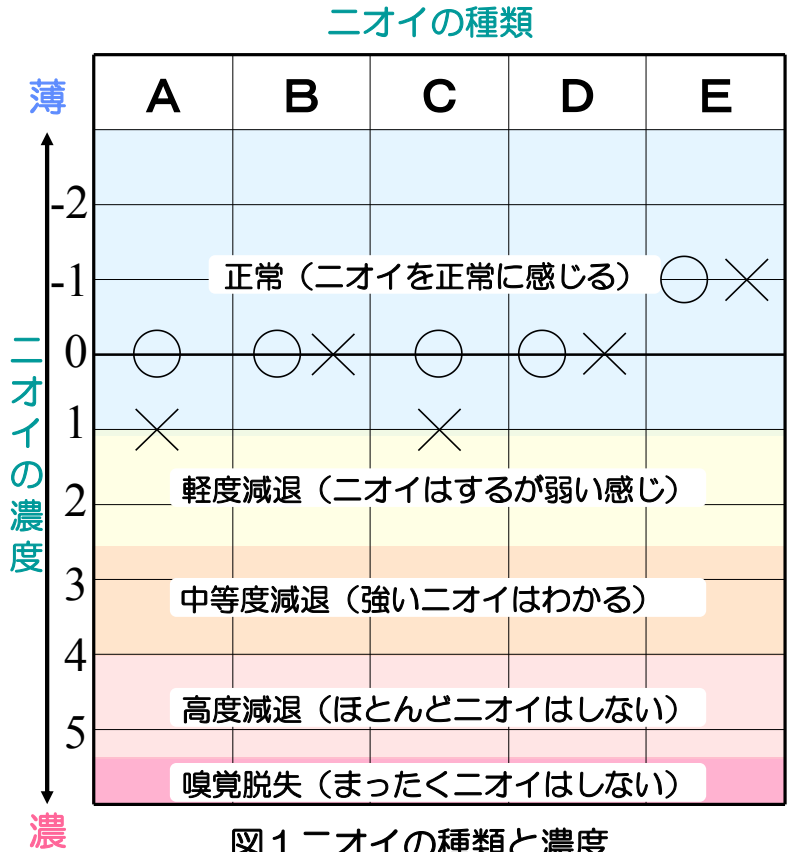


図1 ニオイの種類と濃度

○ ニオイを感じた所

× どんなニオイかわかった所

# 静脈性嗅覚検査 (ニオイの検査)

検査時間  
5分

## ○目的・方法

アリナミンというニンニクのようなニオイの薬を静脈に注射し、ニオイがするかどうか調べます。また注射をしてからニオイを感じるまでの時間と、ニオイが続く時間も調べます。

この検査は、嗅覚障害の治療の予後を判定する上で参考になります。

慢性副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎などで、基準嗅覚検査のニオイがほとんどわからない場合でも、静脈性嗅覚検査でニオイを感じる事が出来れば、嗅覚障害は回復する可能性が多いと言われています。

※アリナミンの注射はまれに血管痛を起こす事があります。痛みがひどい場合はお申し出下さい。